

平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立長良特別支援学校

学校番号	103
------	-----

自己評価

学校教育目標	<p>(1) 校訓（目指す児童生徒の姿） 「仲よく 明るく たくましく」</p> <p>(2) 教育目標（目指す児童生徒の姿を実現するためにどのような教育を行うのか） 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた教育活動を推進し、こころ豊かにたくましく主体的に生きる力を育成する</p> <p>(3) 私たちのスローガン（校訓・教育目標を端的に表した言葉） 「元気な病弱教育」</p> <p>①この学校で学ぶことで、児童生徒を元気にしていきたい ②そのためには、保護者も元気にしていきたい ③そのためには、私たち教職員も元気に働きたい ④力を合わせて、学校も地域も元気にしていきたい</p> <p>(4) 今年度の教育の重点</p> <p>①児童生徒を守りきる安心・安全な体制の整備・推進 ②人とのかかわりを通して、豊かな表現力、自己肯定感を育てる教育の推進 ③確かな学力を身に付けることができる教科学習の充実 ④病弱教育の理解啓発の推進</p>
--------	--

部	小学部
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 授業参観や研究授業を通して板書や発問、授業の流れ、教材制作、学級経営等について具体的に研修し、協議することで、分かりやすい授業作りができ、児童が意欲的に授業に取り組むことができた。 居住地校交流や近隣校交流を積極的に推進する中で、児童の人とかかわる力を伸ばすことができた。 複数の教師が懇談に入ることで、様々な角度から具体的に学習の成果を伝えることができ、保護者の思いも確実に聞き取ることができた。 複数の教師が訪問の授業を行うことで、児童の適切な実態把握と目標設定の話合いが充実した。 教育活動に関するアンケートからは、小学部段階でのキャリア学習や進路情報が分かりにくいというご意見があった。 通学児童数の減少に対応した新しい枠組み作りが必要である。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 病弱教育の知識・技術や、授業力の向上に小学部全体で積極的に取り組むことで、児童の「学びに向かう力」をはぐくむ。 通学児童数の減少に対応した、効果的で多様な学習グループや部行事の在り方を検討し、実践する。 保護者と協力して、児童の実態や学年に応じたキャリア支援を行う。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 学級及び学習グループ会と、グループ長・分掌長等の企画会の実施。 児童の健康状態の把握と、安心・安全に学校生活を送れるための家庭、病棟、保健室等との連携。 キャリア支援部との役割分担と連携。 訪問担当者会との連携。
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> 全校研究会や教科等部会の機会を活用してグループ内での授業研究を積極的に行う。訪問教育ではビデオを活用した授業研究を実施する。 特別支援学校や近隣小学校の研究会等での研修の機会をもつ。

	<ul style="list-style-type: none"> ・居住地校交流や近隣校交流を推進する。 ・通学生と訪問とで2グループに分け、原則グループ内で授業担当者を設定する。 ・1・2組合同の授業や、2・3・4組合同の授業等、学級を越えた学習の機会を設定する。部集会「わくわくタイム」の見直しを行う。 ・部会を2部構成にし、前半は今までとおりの議題の検討を行い、後半は全員で児童理解の会（月1回）と、学級を超えた授業に関する検討会（月1回）を行う。 ・学級やグループの課題を調整し、部会の効率化を図るために、必要に応じてグループ長や分掌長による企画会を行う。 ・訪問教育の児童にスクーリングを勧めるとともに、訪問授業中でも、あいさつ運動等の児童生徒会活動や、小学部児童の学習の様子を伝える。 ・保護者が中学部進学に向かう流れを具体的にイメージできるよう、4・5年生保護者に具体的に伝え、本校中学部を含め学校見学等を実施する。 ・個別の教育支援計画の作成を通して、現状のQOLの向上を目指した福祉サービス等の利用を推進する。
<p>達成度の判断・判定基準あるいは指標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・病弱教育の知識・技術や授業力の向上に、小学部全体で積極的に取り組むことで、児童の「学びに向かう力」をはぐくむことができたか。 ・通学児童数の減少に対応した、効果的で多様な学習グループや部行事の在り方を検討し、実践することができたか。 ・保護者と協力して、児童の実態や学年に応じたキャリア支援を行えたか。
<p>取組状況・実践内容等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全校研究や経年研修に関わる中で、グループ内で授業研究に積極的に取り組んだ。訪問教育では、ビデオを活用して実施した。 ・研究におけるアセスメントの実施で実態把握、教科等部会と授業研究により内容や教材、記録表等の見直しを行った。 ・各自が特教研や近隣小学校の研究会等に参加した。 ・児童の実態に応じた居住地校交流を計画的、積極的にに行った。 ・学校間・近隣校交流を通して、同世代の児童とかわった。 ・授業のねらいに応じて、1・2組、2～4組の合同授業を設定した。また、通学生全体で、金華祭に練習から取り組んだ。 ・児童が見通しをもち活動できるように、部集会の流れと活動内容を見直した。 ・部会後に児童の実態と支援方法を共通理解する、児童理解の会をもった。 ・グループでの話し合い後に、企画会で検討し部会に提案する手順をとった。検討を十分に行いながら、部会の効率化を図った。 ・訪問児童の実態に応じたスクーリングを検討し実施した。またタブレット端末の活用で、児童や保護者に学校内の様子を適時発信した。 ・個々の実態、保護者の要望に応じた学校見学と居住地域実習を行った。 ・中学部進学までの流れをまとめ直して配付したり、担任と係が連携し適時情報を伝えたりした。 ・個別の教育支援計画の見直しを保護者と行い、必要な福祉サービス等を考えた。
<p>評価の視点</p>	
<p>①病弱教育の知識・技術や、授業力の向上に小学部全体で積極的に取り組むことで、児童の「学びに向かう力」をはぐくむことができたか。</p> <p>②通学児童数の減少に対応した、効果的で多様な学習グループや部行事の在り方を検討し、実践することができたか。</p> <p>③保護者と協力して、児童の実態や学年に応じたキャリア支援を行えたか。</p>	<p>評価</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p>
<p>成果・課題</p>	
<p>○客観的な視点での実態把握と授業評価により、課題を明確にし授業内容を見直し教材づくり等を行うことができたことが、児童の成長につながった。</p> <p>○児童下校後の学級職員等の打ち合わせにより、共通理解と意識のもと支援にあたれた。</p> <p>○他校の授業参観や研修会で学んだことを、指導実践に生かすことができた。</p>	

<p>○直接的な交流を通して、児童が自信や意欲を高め、回を重ねて内容を深めることができた。</p> <p>▲居住地校及び近隣校（学校間）交流において、双方が交流の意義を再確認して、児童同士がよりかかわることができる内容を検討していきたい。</p> <p>○合同による授業や部集会、行事への取組により、児童が他学級の友達や活動に興味・関心をもつことができ、学校生活全体を通して言葉かけや応答が増えた。</p> <p>▲更に訪問生を含めた児童相互のかかわりを進めるために、スクーリング前の意識付けや取組紹介を検討していきたい。</p> <p>○児童理解の会や個別課題チェック表が他グループの授業担当時に有効となり、児童の力を引き出した。</p> <p>▲更に、担当者間で実践や成長等を共有できる機会をもてるように時間を探っていく。</p> <p>○グループ会—企画会—部会の流れが、機能的に働いた。</p> <p>○個々の実態、保護者の要望に合わせた情報提供と、学校見学や居住地域実習とを実施することができた。また、そこから得られたことを児童の日々の指導に生かすこともできた。</p> <p>○担任、キャリア担当、部主事が細かに連携して、児童の実態と家庭の実状に応じた支援を適時行うことができたので、今後も継続する。</p>	<p>A ② C D</p>
<p>来年度に向けた課題と改善方策案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の移行期間として、授業内容と評価等の検討を実践と並行して進める。また、教務部等と連携して有効な年間計画と記録、引継ぎを検討する。3グループにおいては、教科と自立活動の目標・指導内容を再確認し教育課程の検討を行う。 ・各学習グループの目標を踏まえ、積極的に校内での合同学習、及び他校との交流学习を計画・実践し、学習の場を広げ、児童相互のかかわりを深める方法を探る。 ・岐阜市民病院での訪問教育開始を含め、児童や家庭の状況に応じた訪問教育の充実のために、関係機関と細やかに連携する。

部	中 学 部
<p>現状及びアンケートの結果分析等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭との連携の元、積極的に外部機関を利用し、時間割変更や支援体制を見直して、本人が将来を見据えながら主体的に学校生活や社会生活が送れるように支援した。 ・生活単元学習や作業学習の中で、集団で活動する場面を多く設けることで、集団の中で生活していく力や、仲間と協力して作業に取り組む力、社会のルール等を身に付けられるように支援した。 ・病棟、訓練機関と連携することで、体調の変化を把握したり専門性を高めたりして、個に応じた適切な支援で実践を進めることができた。 ・毎日、保護者とその日の生徒の様子について連絡し合って連携し、職員間で共通理解を図り、生徒の状態に応じた活動内容、環境、活動グループを調節しながら支援をした。 ・病棟の通学生は授業前後にバイタルを計測し、普段と違う様子の場合は病棟の看護師に報告を行った。また、体調に応じた活動内容を考慮し、授業を実施した。 ・中学生少年の主張大会や岐阜市ユニバーサルデザイン賞等に応募したり、金華祭でミニステージを企画運営したり、地域社会や学校の仲間と積極的に関わる事ができた。 ・作業製品の販売活動を通して、グループや部を超えた人たちとの交流をはかり社会性を養えるように支援した。
<p>今年度の具体的なかつ明確な重点目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な病気や障がいをもつ生徒に対して、将来生きていくための力を身に付けられるような支援に取り組む。 ・健康で安全な生活ができる環境を整えるとともに知識と態度を育てる。 ・基礎的・基本的な知識や能力の確実な習得を図るとともに、主体性や社会性を養い、コミュニケーション能力や表現力・行動力を育てる。
<p>重点目標を達成するための校内組織体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ会、部会、各校務分掌が連携をとり、生徒一人一人にきめ細かい支援をする協力体制を築く。 ・校内の支援組織や校外の関係機関との連携を図る。 ・類型間の連携を密にし、部全体でサポートしあえる体制を築く。

<p>目標の達成に必要な具体的な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との連携を密にし、個々の生徒の実態や情報を把握し、職員間の共通理解を図り協力して支援する。 ・キャリア教育の観点を踏まえたうえで一年間を見据えた進路支援計画のもと、個に応じた適切な支援方法を探り、部全体で取り組む。 ・個別対応については、様々なケースにおいて検討し、授業の場所や担当教員の配置等を含めた事前の体制作りをしたうえで、部全体で協力して支援にあたる。 ・医療機関、関連機関等と連携を図り、病気や障がいに関する専門性を高め、生徒の支援方法に生かす。 ・健康に関する正しい知識が身に付くよう指導するとともに、病気に対する自己管理能力の育成に努める。 ・保護者や病棟、医療機関等と連携を図り、生徒の体調を把握し、それぞれに応じた支援を行う。 ・生徒の状態や支援の方法等について、職員間の情報交換を徹底し、安全等に配慮した支援体制を整える。 ・個々の教員の授業力を向上させ、生徒の興味・関心を引き出し、主体的に学び合う指導形態を工夫するとともに、わかる授業を実施する。 ・一人一人の実態や学習到達度を把握して、「個別の指導計画」をもとに学習の空白や遅れを補う指導をする。 ・様々な行事や校外活動を活用し、生徒の主体的な活動を促し、社会性を養わせる。 ・生徒の表出方法について共通理解し、意思を読み取って支援に役立てる。
<p>達成度の判断・判定基準あるいは指標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの情報をもとに生徒の体調や心情の変化を読み取り、個に応じた適切な支援の方法を実践できたか。 ・キャリア教育の観点を踏まえたうえで、一年間を見据えた進路支援計画を立て、個に応じた適切な支援ができたか。 ・職員間で情報の共通理解を図り、部全体で協力して支援にあたれたか。 ・自分の病気に向き合い、健康に気を付ける態度を育てることができたか。 ・病気や障がいに関する研修に努め、生徒理解を深めることができたか。 ・保護者や病棟、医療機関、関連機関等と連携して、専門性を高めるとともに、部全体として個に応じた支援ができたか。 ・生徒の興味・関心を引き出し、主体的に学び合う態度を育成できたか。 ・「個別の指導計画」を活用し、一人一人に応じて指導内容、指導方法を工夫・改善できたか。 ・自主性・社会性等を高められる校外活動等を計画し、できる限り主体的に活動させることができたか。 ・コミュニケーションの手段が増え、自分の考えを表現させることができたか。
<p>取組状況・実践内容等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・支援機関や医療機関、訓練機関、専門家等と積極的に連携し、支援会議を開催するなど生徒の現状や将来に向けての課題について情報を共有し、個に応じた支援につなぐことができた。 ・保護者懇談を積極的に実施することにより家庭における生徒の様子の把握に努め、学校での様子も含めて部会やグループ会などを利用して職員間で共通理解を図り、チームで支援を行った。 ・居住地域交流や職場見学等を通し、生徒自身が将来について考えることができた。 ・毎朝の健康チェックや授業、普段の生活の中での体調の確認や管理を行い、生徒自身の意識を高めるとともに職員間や保護者との情報交換に努め、適切な支援を行うようにした。 ・定期通院や検査の結果を受け、養護教諭とも連携して支援を行った。 ・ヒヤリハット、アクシデント事例が起きたときに職員間での話し合いを行い、同じ事案を繰り返さないよう改善策について共通理解することに努めた。 ・学習内容や授業時における生徒の様子、保護者からの話を基に、どのようなことに興味・関心を示すか、どのような課題の提示方法がよいか、どのような言葉かけがよいかなどの情報を共有して、生徒の支援に取り組んだ。 ・生徒の理解度や興味・関心に合わせて授業内容を工夫したり、タブレット端末の活用や教材、教具を工夫したりして授業を展開した。 ・金華祭で、個々の特性に合わせた出番を設定した。 ・岐阜市少年の主張大会や障がい者スポーツ大会への参加、遠隔授業による他校生との交流を行う中

	<p>で、学校とは異なる状況で自分自身を表現したり主体性を発揮したりすることができた。また、学校行事や生徒会活動において、他の生徒の前で話をしたり意見を発表したりして、リーダー性を養った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会性を身に付けるため、適切な時期や場所での校外学習や社会見学等を実施した。 ・学習到達度チェックを活用し、生徒の実態に合わせた指導を行った。 												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価の視点</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①様々な病気や障がい有する生徒に対して、将来生きていくための力を身に付けられるような支援に取り組んだか。</td> <td>A (B) C D</td> </tr> <tr> <td>②健康で安全な生活ができる環境を整えるとともに、知識と態度を育てたか。</td> <td>A (B) C D</td> </tr> <tr> <td>③基礎的・基本的な知識や能力の確実な習得及び定着を図るとともに、主体性や社会性を養いコミュニケーション能力や表現力・行動力を育てたか。</td> <td>(A) B C D</td> </tr> <tr> <td>成果・課題</td> <td>総合評価</td> </tr> <tr> <td> <p>○生徒一人一人についての理解が深まり、また、家庭の状況等も踏まえた上で、担当者だけでなく部として、学校として、チームで支援することが増えた。更に、生徒自身や保護者、学校が同じ目標で支援に取り組むことが増えた。</p> <p>○集団での活動や行事に参加できる生徒が増えた。</p> <p>▲登校が不安定な生徒や学びの場を共有することが難しい生徒に対する更なる対応。</p> <p>▲Dタイプの教育課程で学ぶ生徒の増加に対し、専門性の高い指導及び安全な生活ができる環境設定。(今年度は、年度途中の職員の担当変更が度々あった。)</p> </td> <td>A (B) C D</td> </tr> </tbody> </table>	評価の視点	評価	①様々な病気や障がい有する生徒に対して、将来生きていくための力を身に付けられるような支援に取り組んだか。	A (B) C D	②健康で安全な生活ができる環境を整えるとともに、知識と態度を育てたか。	A (B) C D	③基礎的・基本的な知識や能力の確実な習得及び定着を図るとともに、主体性や社会性を養いコミュニケーション能力や表現力・行動力を育てたか。	(A) B C D	成果・課題	総合評価	<p>○生徒一人一人についての理解が深まり、また、家庭の状況等も踏まえた上で、担当者だけでなく部として、学校として、チームで支援することが増えた。更に、生徒自身や保護者、学校が同じ目標で支援に取り組むことが増えた。</p> <p>○集団での活動や行事に参加できる生徒が増えた。</p> <p>▲登校が不安定な生徒や学びの場を共有することが難しい生徒に対する更なる対応。</p> <p>▲Dタイプの教育課程で学ぶ生徒の増加に対し、専門性の高い指導及び安全な生活ができる環境設定。(今年度は、年度途中の職員の担当変更が度々あった。)</p>	A (B) C D
評価の視点	評価												
①様々な病気や障がい有する生徒に対して、将来生きていくための力を身に付けられるような支援に取り組んだか。	A (B) C D												
②健康で安全な生活ができる環境を整えるとともに、知識と態度を育てたか。	A (B) C D												
③基礎的・基本的な知識や能力の確実な習得及び定着を図るとともに、主体性や社会性を養いコミュニケーション能力や表現力・行動力を育てたか。	(A) B C D												
成果・課題	総合評価												
<p>○生徒一人一人についての理解が深まり、また、家庭の状況等も踏まえた上で、担当者だけでなく部として、学校として、チームで支援することが増えた。更に、生徒自身や保護者、学校が同じ目標で支援に取り組むことが増えた。</p> <p>○集団での活動や行事に参加できる生徒が増えた。</p> <p>▲登校が不安定な生徒や学びの場を共有することが難しい生徒に対する更なる対応。</p> <p>▲Dタイプの教育課程で学ぶ生徒の増加に対し、専門性の高い指導及び安全な生活ができる環境設定。(今年度は、年度途中の職員の担当変更が度々あった。)</p>	A (B) C D												
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して登校ができるよう生徒や保護者だけでなく、関係機関との情報交換や連携を継続、強化し、チームとして取り組んでいく。 ・ABタイプの教育課程で学ぶ生徒が次年度2人となるため、授業におけるグループ編成や校外学習、学校行事、生徒会活動、部集会等の在り方や参加について考えていく。職員が主体となる部分が増えるが、リスクを軽減し、学校生活により適応しやすい環境を設定し、生徒の状況に合わせてできる範囲での参加を検討する。 ・Dタイプの教育課程で学ぶ生徒の増加や個別対応を必要とする生徒の増加等に対し、生徒にどう向き合っていくかを部職員で共有し、一人一人が専門性を高める研修等に努め、学びあいを深めるチーム作りを図るとともに、生活年齢と将来を見据えた人員配置や時間割設定を行い、その上で支援を実施していく。特に配慮が必要な生徒、保護者等には、より適切な対応ができるよう意識する。 												

部	高等部
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の病気や障がいの程度が異なり、身体機能、知的理解、コミュニケーション能力、基本的な生活習慣、社会的経験等において多様な実態がある。 ・生徒の実態を教師間で共通理解を図った上で、その合理的配慮や教育的ニーズ、進路希望等を把握してチームとして支援にあたる必要がある。 ・教師自らが指導法や専門性、資質の向上に努め、研修等から得た知識や技能を授業実践に生かすだけでなく、知見の共有化を図り、教師同士が学び合う体制を築く必要がある。 ・教科等の指導内容を明確にし、適切な年間指導計画を策定する必要がある。 ・危機管理意識を高く保ち、十分な引継ぎや連絡により、全職員が情報共有の徹底を図る必要がある。
今年度の具体的な明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の病気や障がいの状態に応じた教育により、将来の社会生活や家庭生活、職業生活に必要な知識と技能、生活態度を身に付ける。 ・豊かな情操と個性ある表現力を身に付ける。 ・健康の保持増進と生活の安定を図る。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア形成の視点から、あらゆる教育活動で効果的な指導を行うため、部内や分掌等の各組織が有機的に連携するとともに、教師自らが指導法や専門性、資質の向上に努め、研修等から得た知識や技能を授業実践に生かすだけでなく、知見の共有化を図り教師同士が学び合う組織を構築する。 ・生徒が創造性豊かな自己表現を獲得し、社会性やコミュニケーション能力を身に付ける手立てとして、多様な体験・表現及び発表や交流の場を積極的に提供する体制を充実

	<p>させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が安心・安全な学校生活、家庭生活を送ることができるよう、家庭や関係機関との連携を図りながら、教師間の共通理解に基づいた危機管理意識の高い支援体制を確立する。
<p>目標の達成に必要な具体的な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が進路目標を明確にもち、やがては希望の進路を実現するため、教育活動のあらゆる場面でキャリア学習を進めるとともに、生徒の実態に応じて保護者や関係機関と緊密に連携してキャリア実習や居住地実習等を実施する。 ・困難さを伝える方法や喜び等の気持ちを表出する力、集団内での適切な言動を身に付けるため、人とかかわる機会を増やし、ソーシャルスキルや表現力の獲得を図る。 ・適切な「個別的教育支援計画」を策定し活用するため、生徒・保護者とともに生徒の実態に合った合理的配慮や教育的ニーズを把握する。 ・生徒が将来生活していく上で必要な基本的な生活習慣や知識・技能を身に付けるため、適切な年間指導計画を策定し、生徒やその集団の実態に応じた教科指導等を展開する。 ・教師が研修や日頃の実践から得た知識や技能を互いに学び合う体制を築くため、様々な機会をとらえ知見の共有に努める。 ・多様な「みる・きく・ふれる・つくる」場を提供して、創造性豊かな制作や発表を行う。 ・表現力やコミュニケーション能力の伸長を図るため、ICT 機器や教具等を積極的に活用するとともに、新しい教材を開発する。 ・自己肯定感を高めるため、コンクールや検定試験、行事等への積極的な取組を支援する。 ・精神的に不安定な状態の生徒が自己理解を進め、自立に向けて前向きに考えることができるよう、保護者の理解や協力を得て効果的で継続的な支援を行う。 ・生徒の健康状態の維持と生活環境の改善のため、外部の専門家や各関連機関と密接に連携して保護者を支援する。 ・リスクの芽を早期に発見したり、緊急事態に適切に対処したりするため、危機管理意識を高く保ち、常に全職員で情報を共有（ホウレンソウ）する。
<p>達成度の判断・判定基準あるいは指標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が明確な進路目標をもち、進路希望が実現したか。 ・ソーシャルスキルや表現力の向上がみられたか。 ・生徒・保護者とともに合理的配慮や教育的ニーズを把握し、個別の支援計画を活用したか。 ・適切な年間指導計画を策定し、生徒やその集団の実態に応じた学習を展開したか。 ・教師が互いに学び合う体制を築くため、様々な機会をとらえ知見の共有に努めたか。 ・多様な「みる・きく・ふれる・つくる」場を提供して、創造性豊かな制作や発表ができたか。 ・ICT 機器や教具等を積極的に活用するとともに、新しい教材を開発したか。 ・コンクールや検定試験、行事等へ積極的に取り組んだか。 ・保護者の理解や協力を得て効果的で継続的な支援を行ったか。 ・関連機関との連携を図ることで保護者を支援し、生徒の生活環境を改善できたか。 ・常に全職員で情報を共有（ホウレンソウ）したか。
<p>取組状況・実践内容等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進路情報を的確にとらえ、保護者や関係機関と連携して生徒の実態に応じた実習先や進路先を選定した。 ・各教科や自立活動、また放課後の補習等において、生徒の将来の進路や生き方につながる学習を実践した。 ・個別的教育支援計画をもとに、生徒の特性（得意なことや苦手なこと）やニーズ、配慮事項を実習先等に提示してキャリア学習を進めた。 ・生徒が社会の一員としての必要な力を身に付けるため、クラスや学年の枠を越えた合同授業をはじめ様々な場面で教師が横断的に協力し合い指導した。 ・教師が自分の担当以外の授業を見学したり、ICT 機器の活用方法や研修した内容を共有したりして、互いに学び合う機会を持った。 ・金華祭等の行事では、生徒が集団の一員として自ら考えて主体的に取り組むことができるよう指導した。 ・生徒の興味・関心や実態を的確に把握した上で、積極的にタブレット端末や教具を活用して創作活動に取り組み、生徒個々の多様な創意や表現を引き出した。

	<ul style="list-style-type: none"> ・日常のあらゆる場面をとらえ、生徒の表出を促す支援を行った。 ・生徒の日々の状態を教師間で共通理解し、生徒の気持ちを汲み取って臨機応変に支援した。 ・授業支援の専門家や外部機関（医師、看護師、理学療法士、臨床心理士等）と連携し、助言を生徒の支援や指導方法に取り入れた。 ・ヨガ、身体緩め等を継続的に続け、心の安定や身体の機能維持を図った。 ・保護者対応や家庭支援について、部全体で協力し問題解決に向け早期に取り組んだ。 												
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th style="text-align: center;">評価の視点</th> <th style="text-align: center;">評価</th> </tr> <tr> <td>①一人一人の障がいの状態に応じた教育により、将来の社会生活や家庭生活、職業生活に必要な知識と技能、生活態度を身に付けることができたか。</td> <td style="text-align: center;">A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</td> </tr> <tr> <td>②豊かな情操と個性ある表現力を身に付けることができたか。</td> <td style="text-align: center;"><input checked="" type="checkbox"/> A B C D</td> </tr> <tr> <td>③健康の保持増進と生活の安定を図ることができたか。</td> <td style="text-align: center;">A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</td> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">成果・課題</th> <th style="text-align: center;">総合評価</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒が具体的な進路目標に向かって、キャリア学習や実習に意欲的に取り組む姿勢を引き出すことができた。 ○生徒が様々な活動を通して自分のもっている力を伸ばすことで、少しずつ自信が深まり、よってその自己肯定感が高まった。 ○日頃から教師間で学び合い、情報を共有し合う雰囲気が醸成されつつある。 ▲過去の進路学習や進路情報等を活用しやすい形にまとめるとともに、進路決定に至るまでの系統的で具体的な進路学習の流れを検討する。 ▲進路選択に際して生徒や保護者の思いと現実との隔たりを埋めるには、学習や実習の評価を的確に伝え、生徒の適性について学校と家庭で共通理解を図りながら進路指導を進める。 ○生徒が検定試験や金華祭、ドリームアート展等に主体的に取り組むことで、達成感を味わうとともに自己有用感を高めることができた。 ○ICT 機器や新しいアプリケーションの導入、時宜にかなった表出を促す日常的な支援により、生徒の表現（表出）やコミュニケーションの力を伸ばすことができた。 ○教師は生徒の心や気持ち、身体の安定を図るために、専門家等の意見も取り入れ、心身の状態を常に職員全体で気を配りながら継続的に支援をしたことで、生徒の不安定な状態が改善された。 ▲ヒヤリハットに関する話題が少ないため、今以上にリスク管理を徹底する。 ▲規則正しい生活リズムの定着していない生徒や家庭への支援が今後も必要である。 </td> <td style="text-align: center;">A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</td> </tr> </table>	評価の視点	評価	①一人一人の障がいの状態に応じた教育により、将来の社会生活や家庭生活、職業生活に必要な知識と技能、生活態度を身に付けることができたか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D	②豊かな情操と個性ある表現力を身に付けることができたか。	<input checked="" type="checkbox"/> A B C D	③健康の保持増進と生活の安定を図ることができたか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D	成果・課題	総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が具体的な進路目標に向かって、キャリア学習や実習に意欲的に取り組む姿勢を引き出すことができた。 ○生徒が様々な活動を通して自分のもっている力を伸ばすことで、少しずつ自信が深まり、よってその自己肯定感が高まった。 ○日頃から教師間で学び合い、情報を共有し合う雰囲気が醸成されつつある。 ▲過去の進路学習や進路情報等を活用しやすい形にまとめるとともに、進路決定に至るまでの系統的で具体的な進路学習の流れを検討する。 ▲進路選択に際して生徒や保護者の思いと現実との隔たりを埋めるには、学習や実習の評価を的確に伝え、生徒の適性について学校と家庭で共通理解を図りながら進路指導を進める。 ○生徒が検定試験や金華祭、ドリームアート展等に主体的に取り組むことで、達成感を味わうとともに自己有用感を高めることができた。 ○ICT 機器や新しいアプリケーションの導入、時宜にかなった表出を促す日常的な支援により、生徒の表現（表出）やコミュニケーションの力を伸ばすことができた。 ○教師は生徒の心や気持ち、身体の安定を図るために、専門家等の意見も取り入れ、心身の状態を常に職員全体で気を配りながら継続的に支援をしたことで、生徒の不安定な状態が改善された。 ▲ヒヤリハットに関する話題が少ないため、今以上にリスク管理を徹底する。 ▲規則正しい生活リズムの定着していない生徒や家庭への支援が今後も必要である。 	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
評価の視点	評価												
①一人一人の障がいの状態に応じた教育により、将来の社会生活や家庭生活、職業生活に必要な知識と技能、生活態度を身に付けることができたか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D												
②豊かな情操と個性ある表現力を身に付けることができたか。	<input checked="" type="checkbox"/> A B C D												
③健康の保持増進と生活の安定を図ることができたか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D												
成果・課題	総合評価												
<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が具体的な進路目標に向かって、キャリア学習や実習に意欲的に取り組む姿勢を引き出すことができた。 ○生徒が様々な活動を通して自分のもっている力を伸ばすことで、少しずつ自信が深まり、よってその自己肯定感が高まった。 ○日頃から教師間で学び合い、情報を共有し合う雰囲気が醸成されつつある。 ▲過去の進路学習や進路情報等を活用しやすい形にまとめるとともに、進路決定に至るまでの系統的で具体的な進路学習の流れを検討する。 ▲進路選択に際して生徒や保護者の思いと現実との隔たりを埋めるには、学習や実習の評価を的確に伝え、生徒の適性について学校と家庭で共通理解を図りながら進路指導を進める。 ○生徒が検定試験や金華祭、ドリームアート展等に主体的に取り組むことで、達成感を味わうとともに自己有用感を高めることができた。 ○ICT 機器や新しいアプリケーションの導入、時宜にかなった表出を促す日常的な支援により、生徒の表現（表出）やコミュニケーションの力を伸ばすことができた。 ○教師は生徒の心や気持ち、身体の安定を図るために、専門家等の意見も取り入れ、心身の状態を常に職員全体で気を配りながら継続的に支援をしたことで、生徒の不安定な状態が改善された。 ▲ヒヤリハットに関する話題が少ないため、今以上にリスク管理を徹底する。 ▲規則正しい生活リズムの定着していない生徒や家庭への支援が今後も必要である。 	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D												
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の進路学習や進路情報を活用しやすい形にまとめる。また進路実現に必要な基礎基本を身に付けるために、生徒が系統的で具体的に取るよう3年間の進路学習の流れを明確にする。 ・教師が指導法や授業力、専門性、資質の向上に努めると共に、部全体の指導力が高められるよう教師同士が学び合う環境を整える。 ・「今大丈夫だから、これからも大丈夫」という意識を生まない体制をつくるため、危機管理について日頃から意識を高く保ち、十分な引継ぎや連絡により、全職員が情報共有の徹底を図る。 												

評価する領域・分野	教務・学習活動
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒数及び職員数の減少の中、学校規模に適当な行事や学習活動の枠組みを整え、学校全体を先導していくことが求められている。 ・会議時間の短縮等、多忙化解消に向けた意識が高まってきている。より一層実効性のある学校運営に結び付けていきたい。 ・合理的配慮の観点「個別の指導計画」にも明示され、グループ会において「個別の教育支援計画」と照らし合わせ、懇談会にて保護者と共通理解

	<p>を図る下地が整った。一方で、「個別の指導計画」と「年間学習計画」との関係性、PDCAサイクルにおける「個別の指導計画」の位置付け等、運用の仕組みを見直す必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・iPad を積極的に授業で使用し、活用頻度が多くなった。今後、更なる教材教具の開発と研修を推進し、訪問教育や遠隔授業での利用等幅を広げたい。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・業務のスリム化・効率化を図るため、多忙化解消に向けた取組を学校を中心となってより一層進める。 ・授業力の向上を図るため、各部、学校全体における「個別の指導計画」を核としたPDCAサイクルを再整備する。 ・教育環境を整えるため、iPad 等 I C T 機器及び教材教具の更なる開発と有効活用を積極的に推進する。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・分掌職員一人一人の役割を明確にし、企画から完了まで見通しをもって業務を遂行できるようにするため、係を再編する。 ・現在の学校規模に適切な効率の良い学校運営体制を整えるため、分掌間の業務の入替や統合等、分掌組織の再編を先導する。 ・「個別の指導計画」を核としたPDCAサイクルが機能するように各部・各グループと連携し、運用するタイミングを図る。 ・情報及び教材・教具の管理の他、開発、研修等に特化した取組を積極的に推進するため、教務部の中に情報教育と教材管理の分野を合わせた「教育環境」係を設ける。
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の役割を明確にした上で最後まで責任をもって業務を遂行できる流れを整え、職員一人あたりの業務の種類を減らす。 ・各分掌内の整備を進めるとともに、分掌間の入替えや統合により、学校全体の運営体制をスリム化する。 ・「個別の指導計画」における評価を保護者との共通理解、次の目標設定につなげるため、教育通信に反映するような書式にする。 ・業務の効率化を図るため、「個別の指導計画」と教育通信とのリンク等を検討する。 ・「教育環境」係による iPad 等 I C T 機器を活用した実践紹介、授業での活用方法等について積極的に発信していく。 ・訪問教育及び遠隔授業における効果的な利用方法を重点的に探求する。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・多忙化解消の取組が進み、職員全体の時間外勤務の時間が前年度より減ったか。 ・「個別の指導計画」の書式が整い、活用の利便性が増したか。 ・iPad 等 I C T 機器の利用が広がり、授業における使用頻度が前年度より増えたか。
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・多忙化解消を念頭に起き、会議や起案方法の工夫、週時間割の緻密な調整を行った。 ・経験のある職員からの伝達のもとに、複数の職員で相談し合いながら業務に当たった。 ・月に1回程度部教務が会合し、部間の連絡調整及び「年間指導計画」作成

	<p>や「個別の指導計画」の様式変更等の検討を積極的に進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各分掌と調整をしながら学校全体の分掌組織の枠組み、分掌内業務の見直しを行った。 ・新学習指導要領の理解を進める中で「個別の指導計画」及び「年間指導計画」の様式の改善を学校全体に進言し、小・中学部の「年間指導計画」作成を始動させた。 ・「個別の指導計画」と教育通信のリンクを検討した。 ・教育環境係が位置付けられ、ホームページを改良し、リアルタイムに情報発信した。 ・情報及び教材等の環境整備を積極的に進め、タブレット端末等を利用した授業実践が増えた。 ・情報モラル研修を実施し、また、情報の危機管理について継続的に注意喚起した。
評価の視点	評価
<p>①多忙化解消の取組が進み、職員全体の時間外勤務の時間が前年度より減ったか。</p> <p>②「個別の指導計画」の書式が整い、活用の利便性が増したか。</p> <p>③タブレット端末等ICT機器の利用が広がり、授業における使用頻度が前年度より増えたか。</p>	<p>Ⓐ B C D</p> <p>A Ⓑ C D</p> <p>Ⓐ B C D</p>
成果・課題	総合評価
<p>○多忙化解消から働き方改革の視点へと職員全体の意識化を図ることができた。</p> <p>○儀式的行事や教科書業務等、経験のある職員が丁寧に伝えたり、担当者間で相談し確認し合ったりしたことにより、内容や進め方の理解が深まり、確実な業務遂行ができた。</p> <p>○学校の現状に応じた分掌組織全体の枠組みの検討を重ね、改編できた。</p> <p>▲更なる働き方改革の進行に伴い、キッズウィークの導入等も想定し、二期制への移行を検討していく。</p> <p>▲次年度は看護学部やSSWの実習等、大学生の受け入れが増える。全校職員の協力体制のもとに無理のない体制をつくり、実習を進めていく。</p> <p>○新学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」の三つの柱を踏まえた年間指導計画の作成（小・中学部）に着手できた。また、「個別の指導計画」と教育通信の関連性等についてPDCAサイクルの運用の面から検討を進められた。</p> <p>▲新学習指導要領の移行期間において、「年間指導計画」の評価を進めながら随時改良を加えていく。</p> <p>▲新学習指導要領の理解浸透と合わせて「個別の指導計画」の様式変更を進めていく。</p> <p>○教育環境係が効果的に機能し、情報処理の速度を上げ、情報機器の利用促進と一方では情報管理について積極的な整備ができた。</p> <p>○各部、各グループにおけるタブレット端末等を活用した様々な授業実践が広がった。</p> <p>▲訪問教育や遠隔授業を含め、タブレット端末をはじめとする情報機器の更なる効果的な活用について研修できる機会を設けていく。</p>	<p>Ⓐ B C D</p>

<p>来年度に向けての改善方策案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革、PDC Aサイクルの運用等の観点から二期制の年間計画を策定する。 ・「年間指導計画」の評価と合わせ、「個別の指導計画」の様式変更を進める。 ・教育環境係において情報教育分野の教材開発と有効活用を推進する。
----------------------	---

<p>評価する領域・分野</p>	<p>生活支援・特別活動</p>
<p>現状及びアンケートの結果分析等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校における安全指導においては、個々の通学方法に合わせて、毎日支援できた。また、警報や気象に応じた対応をした。 ・ドリームアート展、各種作品展やイベント等に参加し、児童生徒の創作活動や表現活動を校内外に発信し、自己有用感をはぐくむことができた。 ・ひびきあい週間・月間においては、あつたかマーチング活動やあいさつ運動、人権啓発放送を行った。掲示物作成においては、児童生徒、保護者、職員も参加し、「ありがとう」の気持ちを込めたメッセージを伝え合った。 ・児童生徒の病気や障がいの状況、個別の配慮やかかわり方等について全職員で情報交換や共通理解を図った。 ・教育相談に関しては、研修会や教育相談だよりの発行を行い、教育相談に関する職員の意識の向上を図った。また、教育相談月間に生徒のヒアリングを行い、様々な変化に早期に気付くことができるように努めた。しかしアンケートより、保護者にはまだ十分な理解がなされていないので、今後も働きかきしていく必要がある。
<p>今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が学校生活を安心・安全に楽しく送ることができるための支援の充実を図る。 ・児童生徒の実態に応じた、自己有用感や帰属意識をはぐくむことができる支援を推進する。 ・児童生徒・保護者一人一人を尊重し、受容的に接することができる支援を推進する。
<p>重点目標を達成するための校内組織体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援部員一人一人が責任をもって役割を果たし、会議や研修会をとおして全職員に共通理解と連携のとれる体制づくりを行う。 ・児童生徒が活動する意義や喜びを感じ、部を越えた交流ができる取組を、他分掌や創作活動担当者と連携しながら行う。 ・全職員が児童生徒や保護者一人一人を尊重して受容的に接し、信頼関係を築くことができるような、取組や職員研修を行う。
<p>目標の達成に必要な具体的取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールバスの安全運行のために、関係者相互の連携を密に行う。 (両校担当者会、バス会社・添乗員、保護者との連携・連絡等) ・自力通学生の通学路の危険箇所調査を行う。(年度当初個々に調査) ・毎日登下校時校門にて、安全指導とあいさつを交代で行う。また、交通安全教室や保健安全部と協力して防犯訓練を計画する。 ・自己有用感や連帯感を高めるために、児童生徒会活動、MSリーダーズ活動、学校行事等の部を越えた児童生徒の交流等を積極的に行う。 (あいさつ運動、全校集会、昼の放送、金華祭、ボランティア活動等) ・放課後活動のチーフ会や担当者打ち合わせ会を行う。 (種目チーフ会、担当者会等) ・充実した創作活動・表現活動を発信するために、創作活動担当者との打ち合わせを行い、年間をとおして計画的に授業を行う。 (教科会、担当者会、グループ会等) ・人権感覚を磨いたり、受容的な教育相談や寄り添う指導を行ったりできるように、職員研修やスクールカウンセラーを活用する。また、取組をたより等で保護者に発信していく。 (職員研修会、職員会、教師のチェックシート等)

	<ul style="list-style-type: none"> 問題の早期発見と適時支援ができるように、日常的・定期的な教育相談を継続し、情報共有できる機会を職員会等で継続して行う。 (児童生徒情報交換会、職員会、部会、グループ会、ケース会等)
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> 安心・安全に楽しく学校生活を送ることができる支援ができたか。 児童生徒が自己有用感や帰属意識をはぐくむことができる支援ができたか。 情報共有や研修を行い、一人一人を尊重した受容的な支援ができたか。
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> 安全指導として毎日登下校時に校門に立ったり、自力通学生の通学経路の危険箇所の確認をしたりした。また、警報や気象に応じた対応をした。 交通安全教室を実態に応じて行った。 学校安全掲示板を保健安全部と打ち合わせをして計画的に掲示した。 不審者対応訓練では、本番を想定して授業時間に訓練を行った。 児童生徒会やMSリーダーズが中心となり、あいさつ運動や募金活動、ボランティア活動を行った。 ドリームアート展、各種作品展等に参加し、児童生徒の創作活動や表現活動を校内外に発信した。 ひびきあい週間①②・月間においては、あったかマーチフラッグ活動やあいさつ運動、人権啓発放送や人権だより発行等を行った。 全職員の人権意識の向上やいじめ問題等の未然防止・早期発見を図るべく、教師のチェックシートによる啓発を行った。 教育相談に関しては、研修会や教育相談だよりの発行を行い、教育相談に関する職員の意識の向上を図った。また、年間2回の教育相談月間に児童生徒のヒアリングを行い、様々な変化に早期に気付くことができるように努めた。その後担当者会議をもち情報共有した。 スクールカウンセラーの配置に伴う保護者と教職員の相談を年間9回実施した。
評価の視点	評価
① 安心・安全に楽しく学校生活を送ることができる支援ができたか。	A (B) C D
② 児童生徒が自己有用感や帰属意識をはぐくむことができる支援ができたか。	(A) B C D
③ 情報共有や研修を行い、一人一人を尊重した受容的な支援ができたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<p>○<教育活動に関するアンケートより> 「いじめや差別、体罰のない環境」「創作活動や表現活動、作品展等の活動」「人権感覚を高めるためのあいさつ運動やひびきあいの日の取組」では、それぞれの項目について、昨年度よりも保護者から高評価を得た。</p> <p>○スクールバスの運行では、大きなトラブルなく一年間運行できた。</p> <p>▲児童生徒の乗車に関する岐阜希望が近特別支援学校や保護者との連絡が不徹底なことが時折あったので、より緻密な連絡・連携ができるような方策を考えていく。</p> <p>○登下校時の旗当番では、主事先生に入っていただけで助かった。</p> <p>▲分掌の人数が減り、分掌内だけですべてを担当するのは難しくなってきた。</p> <p>○児童生徒の創作活動や表現活動を、金華祭やドリームアート展、各種作品展等で校内外に発信することで、表彰されたりコメントをいただいたりして、自己肯定感をはぐくむ取組となった。また、今年度より金華祭を1日半の日程で実施し、児童生徒の実態に応じた活動となったので、来年度も継続実施する。</p> <p>○ひびきあい週間・月間(人権教育)においては、あったかマーチフラッグ活動やあいさつ運動、人権啓発放送や人権だよりを発行することで、児童生徒、保護者、職員も参加した「ありがとう」の気持ちを入れたメッセージを伝え合ったり、人権感覚を啓発したりする取組となった。</p> <p>○教育相談においては、研修会や教育相談だよりの発行を行うことで、教育相談に関する職員</p>	A (B) C D

<p>の意識を高める取組ができた。教育相談月間では、生徒のヒアリングを行うことで、様々な変化に早期に気付くことができるように努める取組となった。</p> <p>▲教育相談係を中心に児童生徒の情報共有はできたが、全校職員への周知という点では、不十分なところがあった。</p> <p>○スクールカウンセラーが配置されて2年になり、今年度も保護者や職員対象に相談の機会となった。</p> <p>▲申し込みが漸増的だったので、より積極的な利用を図るための方策を検討する。</p>	
<p>来年度に向けての改善方策案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールバス運行については、両校担当者、関係者（添乗員）、担任、保護者間での連絡を引き続き密にし、連絡カード・電話・メール等を利用した確実な連絡に努める。 ・旗当番については、より安全に、職員の負担を軽減できるように、改善策を提案していく。 ・児童生徒に関する情報共有の在り方では、教育相談係が中心となり、他分掌や他部、コア・ティーチャー等と連携した情報共有と体制作りを検討していく。 ・職員の危機管理意識を高め、迅速に組織で対応する安心・安全な学校となるように、今年度と同様に研修や実際の訓練等を行い体制を確認していく。また、保護者には各種のたよりやPTA総会、ホームページ等を通して、引き続き取組をわかりやすく発信していく。

評価する領域・分野	キャリア支援・進路支援
<p>現状及びアンケートの結果分析等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小中高とつながりを意識したキャリア教育の実践に努めている。 ・合理的配慮の視点から「個別的教育支援計画」を見直し、様式の中に明記した。年3回懇談時に児童生徒や保護者と内容について確認し、次の学年や学校、卒業後外部の機関との引継ぎに活用している。 ・部懇談やPTA総会の際に保護者向けに本校のキャリア教育についての説明をしている。また必要に応じて、個別の懇談時にキャリア支援部の担当教員が入り、進路に関する情報提供を行っている。 ・生徒の課題を踏まえ、個々に応じたキャリア実習を実施している。実習を通して、自己理解を深めたり、進路選択につなげたりしている。 ・「キャリア支援通信」では、小学部から高等部まで全ての部にかかわる情報やキャリア教育の実践を掲載している。 ・保護者アンケートでは、進路にかかわる事項の評価は低く「どのように連携が行われているのかわからない」「我が子の進路とは関係ない」などの意見がある。さらに保護者のニーズを把握し、継続的に情報発信をしていく必要がある。
<p>今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部、中学部における進路指導の取組を明確にし、小一中一高の各段階における将来の生き方につながるキャリア教育を推進する。 ・担任、児童生徒、保護者のニーズに応じた情報提供を行い、校内支援をする。 ・関係機関と連携し、個々の課題に応じた家庭支援や進路支援を行う。
<p>重点目標を達成するための校内組織体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部担当者、中、高の進路指導主事を中心に、他の分掌や担任と連携、協力し、部のキャリア教育（進路指導）を推進する。 ・各部に校内支援係を置き、担任等と連携し児童生徒やその保護者のニーズに応じた校内支援を行う。
<p>目標の達成に必要な具体的な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア支援部として行う小学部、中学部の学校見学や職場見学、卒業までの流れ等の取組を整理し、系統的、段階的に計画し実施する。 ・本校のキャリア教育（進路指導）について保護者理解を図るために、部懇

	<p>談やPTA総会等の機会を利用し、説明する機会を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育（進路指導）を円滑に進めるために、新学期（4月）に年間の進路指導の年間目標や取組内容を明示し、教師間で共通理解を図り、生徒一人一人の実態に応じたキャリア実習等を担任と連携して計画実施する。 ・本校のキャリア教育（進路指導）に対する保護者の意識を高めるために、部の取組内容やニーズに応じた情報等より身近な内容を掲載した「キャリア支援通信」を年間1～2回（年間6回発行）発行する。 ・保護者懇談に担当者が入り、保護者のニーズを聞き取り、児童生徒や保護者の必要とする情報提供をする。 ・年度当初、新1年生の保護者に個別の教育支援計画の有効的な活用について理解してもらえよう、担当者が説明する。 ・個別の教育支援計画の運用やその意義について、部会等で教師間の共通理解を図る。 ・必要に応じて外部機関と連携し支援会議等を開く。
<p>達成度の判断・判定基準あるいは指標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小、中、高等部の各部におけるキャリア教育（進路指導）の課題に沿って、取組内容を明確化し、段階に応じた実践ができたか。 ・懇談等の機会を利用して保護者、担任と共に情報を共有したり、ニーズに応じた情報発信をしたりして、適切な校内支援ができたか。 ・関係機関と連携し、支援会議や移行支援会議を開催し、個々の課題に応じた家庭支援や進路支援ができたか。
<p>取組状況・実践内容等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者向けに本校のキャリア教育についての説明をPTA総会や部懇談の機会を利用し行った。 ・将来社会で生きていく姿をイメージしながら、生徒一人一人の興味や適性、課題を踏まえキャリア実習を実施した。 ・保護者のニーズや何に困っているかなどを把握するために、生徒や保護者との懇談にキャリア支援部の担当者も参加し、担任と一緒に話を聞く機会をもった。 ・キャリア支援通信や掲示板等を利用し、児童生徒の実態に応じたキャリアに関する情報発信を行った。 ・年3回懇談時に生徒や保護者と個別の教育支援計画の内容について確認し、次の学年や学校、卒業後外部の機関との移行支援会議や引き継ぎ等に活用した。 ・児童生徒や保護者、担任等のニーズに応じて外部の機関と連携し支援会議を開いた。
<p>評価の視点</p>	<p>評価</p>
<p>① 小、中、高等部の各部におけるキャリア教育（進路指導）の課題に沿って、一人一人の状況に応じて、段階的に実践ができたか。</p> <p>② 懇談等の機会を利用して保護者、担任と共に情報を共有したり、ニーズに応じた情報発信をしたりして、適切な校内支援ができたか。</p> <p>③ 関係機関と連携し、支援会議や移行支援会議を開催し、個々の課題に応じた家庭支援や進路支援ができたか。</p>	<p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>(A) B C D</p>
<p>成果・課題</p>	<p>総合評価</p>
<p>○ 中学部や高等部進学までの流れを文書にして保護者に配付した。小6や中3の保護者には卒業までの流れやその後の見通しをもつことができ、有効であった。</p> <p>○ 生徒一人一人の希望進路先に応じて、キャリア学習を行った。今年度は療養介護を受けながら働くという新しい形の就労へとつなげることができた。</p>	<p>(A) B C D</p>

<p>▲保護者への本校キャリア教育についての理解を図るため、PTA総会後や部懇談で進路説明会や各部の課題に応じて話す機会を設けたが、参加保護者が少なく、理解を深めるまでにはいかなかった。</p> <p>▲「他の機関ときめ細かく連携して進路指導を行っている」の項目では保護者から「わからない」という回答が多かった。キャリア実習や居住地域実習の情報発信の仕方を工夫していく必要がある。</p> <p>○キャリア支援部の担当者が保護者との個人懇談に参加し、保護者のニーズを把握したり、進路や福祉サービスに関する情報を提供したりすることができた。</p> <p>○キャリア通信で、毎回各部の活動内容を紹介したり、各部の取組を特集したりして通信の内容を工夫し、保護者アンケートでも高い評価を得ることができた。</p> <p>○必要に応じて外部の専門家（主治医）面談を実施したり、関係機関の職員に参加してもらい支援会議を開いたりし、外部の機関と連携し情報共有しながら児童生徒の支援ができた。</p> <p>○部主事や担任、コーディネーター、コアティーチャーと連携し、支援会議を開き、児童生徒の校内支援にあたることができた。</p>	
<p>来年度に向けての改善方策案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に対して小学部段階からキャリア教育の意義や重要性を理解してもらえよう、引き続きPTA総会やPTフォーラム、懇談会等を利用して話す機会を作っていく。また小学部段階から個々の課題に応じた居住地域実習を積極的に実施したり、実態に応じて進路希望調査を実施したりしていく。 ・本校におけるキャリア教育の実践をキャリア通信やホームページを通して、実践活動の内容やその様子、児童生徒の体験談等、具体的な内容で分かりやすく伝えていく工夫をする。

<p>評価する領域・分野</p>	<p>保健安全</p>
<p>現状及びアンケートの結果分析等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動に関するアンケートでは、災害時に対応する取組や安心・安全な医療的ケアの実施等に関して評価を得た。今後も職員の危機管理意識を高める取組として、防災訓練や医療的ケア対象児童生徒を中心とした定期的な緊急時対応訓練等を継続していく。 ・ほぼ毎月訓練を実施することで児童生徒や職員のシェイクアウトの姿勢を取る行動が定着している。ふれあいの日の防災コーナーの企画や総会日のシェイクアウト訓練の実施等は防災に関して保護者の意識付けをすることができた。 ・学校安全指導者のもと昨年度実施した研修（HUG訓練）等から、「本校が抱える災害リスクの再確認」「難所運営対策の検討」という課題が出てきた。 ・アクシデントを未然に防ぐ取組として「見守り週間」の実施、ヒヤリハットの集約・分析、対応策の検討をしたが、必要な情報を周知できたかという点では不十分であった。 ・学校安全に関する研修を実施し、心身の健康状態の把握と安全な介助に努めている。加えて、昨年度新たに設置・開催したアレルギー対応委員会の方針に基づき、今年度は具体的にアレルギーに関する情報と対応の職員への周知を進めていく必要がある。また今年度から始まる「てんかん発作時の緊急措置」への対応も進めていく。 ・防災教育、環境教育、食育、性教育について、意義や目的を明らかにし月間の取組を行っている

<p>今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・土砂災害への対応と避難所運営の対策の検討及び様々な災害を想定した訓練と避難の長期化も想定した訓練の実施を通して、災害に対する職員の危機管理意識を高める。 ・児童生徒等が安全な学校生活を送れるよう、事故の未然防止の取組や緊急時対応訓練、安全な摂食指導等の取組を通して、職員の危機管理意識を高める。
<p>重点目標を達成するための校内組織体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災やヒヤリハット、医療的ケア、摂食指導の担当者を各学部置き、担当者を中心に安全対策を行う。 ・担任を中心に、看護講師、関係職員で医療的ケア対象及びアレルギーを有する児童生徒を中心に緊急時対応の体制を組む。
<p>目標の達成に必要な具体的取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・土砂災害への対応、避難の長期化や近隣住民が本校に避難してきた場合を想定した避難所対策を検討し、土砂災害も含めた防災訓練と避難所運営に関する訓練を実施する。 ・生活支援部と連携し、不審者対応訓練も含めた「命を守る訓練」を実施する。 ・バイタルサイン測定の意義と方法、てんかん発作時の緊急措置に対応する際の留意点や手順の理解を図るために、新学期（4月）に医療的ケアに関する職員研修を実施する。 ・ヒヤリハット事例を集積する意義を年度当初職員間で確認の後、「見守り週間」を実施する。各事例から得た対策を職員間で情報共有できる機会を、必要に応じて適時設ける。 ・アレルギーを有する児童生徒への配慮と管理、対応の周知のため、児童生徒情報交換会での情報共有及び部単位での緊急時対応（エピペン使用含む）を理解する機会を設ける。 ・児童生徒が健康な学校生活を送れるよう、保護者や病棟、保健室、担任が連携し、児童生徒の健康状態を把握する。 ・担任と看護講師が連携し、学期に一度、医療的ケア対象及びアレルギーを有する児童生徒を対象とした緊急時対応訓練を実施する。 ・学習支援部と連携し、摂食指導担当者会を毎学期に設け、児童生徒の摂食における問題点を確認し、担当教員に提示する。
<p>達成度の判断・判定基準あるいは指標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・土砂災害及び避難が長期化した場合を意識した訓練が実施できたか。学校が避難所になった場合の方策について具体化できたか。 ・事例や対応策を適時効果的に報告することで、アクシデントを未然に防ぐために必要な情報を共有できたか。 ・アレルギー等に関する研修や医療的ケア対象児童生徒を中心とした緊急時対応訓練の実施により、学校における安全を意識できるような取組ができたか。
<p>取組状況・実践内容等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4回の対策委員会を開催し、防災マニュアルの見直しと「土砂災害に関する避難確保計画」の作成をした。 ・防災・減災センターから講師を招き、職員研修（DIG訓練）を行った。 ・ミニ防災訓練（6回）、地震・火災を想定した命を守る訓練（5月）に加え、市担当者を講師に招いて、土砂災害を想定した命を守る訓練を実施した（11月）。 ・生活支援部と連携し、命を守る訓練としての不審者対応訓練（10月）を実施した。また、ヒヤリハット・アクシデント報告について、保安部・生支部それぞれが担う内容を確認し、適した報告様式を作成した。 ・ヒヤリハット・アクシデントの事例や対応策を全職員で共有するために、校内電子掲示板

	<p>に閲覧ページを開設した。特に共通理解の必要性が高い事例は「事例検討会」を実施し、全職員で対応を確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導医を講師に招いての「てんかん発作時の緊急対応」の研修（4月）、各部ごとのアレルギーに関する情報共有とエピペン使用を含む研修、医療的ケア対象及びアレルギーを有する児童生徒に関する緊急時対応訓練を実施した。 ・岐阜希望が丘特別支援学校から講師を招き、摂食担当者会で挙げられた支援を必要とする児童生徒を対象とした研修会を開催し、安全な摂食のための具体的な支援方法を確認した。 ・防災教育、環境教育、食育について、意義や目的を明らかにして月間の取組を行った。
<p>評価の視点</p>	<p>評価</p>
<p>①土砂災害及び避難が長期化した場合を意識した訓練が実施できたか。学校が避難所になった場合の方策について具体化できたか。</p> <p>②事例や対応策を適時効果的に報告することで、アクシデントを防ぐために必要な情報を共有できたか。</p> <p>③アレルギー等に関する研修や医療的ケア対象児童生徒を中心とした緊急時対応訓練の実施により、学校における安全を意識できるような取組ができたか。</p>	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>
<p>成果・課題</p>	<p>総合評価</p>
<p>○新たに作成した「土砂災害に関する避難確保計画」に基づき訓練を実施した。土砂災害の対応について基本的な知識を得ることができた。</p> <p>○マニュアルに基づきつつも、変化する状況に臨機応変に対応することの重要性や安全を意識した教室配置について意見が挙がるなど、避難の長期化を想定した職員研修を通して危機管理意識を高めることができた。</p> <p>○地域住民の避難を想定した施設開放、勤務時間外における対応、災害の種類や状況に応じた避難方法等について、改訂した防災マニュアルに基づいて基本方針を確認できた。</p> <p>○今年度の「教育活動に関するアンケート」で得られた、保護者への理解・啓発を進める必要があるという課題を受け、新たにPTA特別支援教育セミナー（2月）で防災の取組を説明する機会をもつこととした。</p> <p>▲火災・地震及び土砂災害を想定した訓練を通して、事務と連携した初期消火、安全な車いすの下のろし方、垂直避難に応じた電源や備蓄品の確保、長時間を想定した避難対応等の課題が明らかになった。</p> <p>○校内電子掲示板や朝礼等の場を活用し、早期に情報共有することができた。</p> <p>▲例年と比べヒヤリハット報告件数が減少した。危機管理意識の低下が懸念される。</p> <p>○研修や訓練を通して、てんかん発作時やアレルギー反応等緊急時の基本的な対応を確認できた。</p> <p>▲アレルギー対応の基本的な理解は進んだが、各学習場面での配慮点の検討や周知は不十分であった。</p> <p>▲来年度から新たに始まる「日常的な医療的ケアを必要とする児童生徒のスクールバス乗車」について、安全に実施できるように、実施までの流れや必要様式について至急検討する。</p> <p>▲性教育については、継続した支援につながる記録の残し方について、学校全体で検討する。</p>	<p>A (B) C D</p>
<p>来年度に向けての改善方策案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の危機管理意識を高めるために、防災マニュアル及び「土砂災害に関する避難確保計画」を周知すると共に、今年度明らかになった課題を検討し、より現実に即した訓練を研修と組み合わせて実施する。 ・日常の学校生活に対する危機管理意識を高めるために、ヒヤリハット・アクシデント事例の報告意義を再確認すると共に、有意義な情報共有を進める。また、個別取組プラン(仮称)を活用し、各学習場面でのアレルギーに関する配慮事項を検討、確認し情報共有を図る。

評価する領域・分野	学習支援・研修
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・「社会とかかわる力を育てる病弱教育の在り方～合理的配慮に基づいた授業づくり～」をテーマとして実践研究を行い、授業における合理的配慮について検証することができた。また、実践内容と成果を実践集録（第31集）にまとめた。 ・2回の公開授業研究会、事前・事後研究会や授業参観を通して研究を深めることができた。しかし、授業参観日から事後研究会までに期間が空いたことで、話し合いに支障をきたしたグループがあった。 ・他分掌と連携して職員研修会を計画、実施することができたが、自主的な学習会を計画、実施することができなかった。 ・グループウェアの活用等により、校外で行われる研修会等の情報を全職員に提供することができたが、積極的な参加にはつながらなかった。 ・児童生徒の学習意欲を高めたり、環境を整えたりすることを目指し、運動会の組織運営や図書の整備、読書週間の取組を行った。 ・H29年度の図書室木質化工事に向けて、設備等の要望を行った。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・PDCAサイクルに基づいた授業改善を推進し、児童生徒の主体性や生きる力を高める。 ・職員のニーズに応じた研修会の実施や効果的な研修情報の提供を通して、職員の専門性の向上を図る。 ・利用しやすい図書室の環境作りや読書活動の推進を通して、図書の学習活用や読書の習慣化を図る。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・各学習グループA、B、C、D、Eで研究グループを編成し、全職員が所属する。また、各研究グループにチーフや連絡係を置くために、他分掌にも協力を依頼することで人員を確保する。 ・特別支援教育及び病弱教育に対する専門性を高めるための研修会や自主的な学習会を、他分掌やコア・ティーチャーと連携して計画、実施する。 ・図書室の整備にかかわる作業を行うために、分掌以外の職員にも協力を依頼する。
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の年間計画にPDCAサイクルを位置付け、それぞれの段階での具体的な取組を提示する。 ・児童生徒の実態把握に生かすことができるアセスメントツール等を提示する。また、アセスメントの実施や活用に関する研修会を行う。 ・研究チーフ会で各研究グループの進捗状況や課題等を把握し、解決策や全体の方向性を共通理解を図り、全体や各グループへ提示していく。 ・授業研究会（事前・事後研を含む）を効果的に行うために、明確な協議内容の提示、授業参観感想用紙や授業VTRの活用等の工夫を行う。 ・職員の研修に対するニーズを把握するアンケートを実施し、それを基に学習会を計画、実施する。 ・校外で行われる研修会等の職員への周知方法について、全体朝礼や学習会での紹介、グループウェアの活用といった使い分けを行う。 ・校外で行われる研修会に参加予定、あるいは参加した職員を把握し、資料提供等の協力を依頼する。 ・不要図書の整理を行い全体の冊数を減らす。 ・分かりやすい図書の分類や掲示の工夫等により室内の環境を整える。 ・児童生徒の読書への興味・関心を高めるために、読書週間の取組や図書だよりの発行を行う。

達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・実践研究の中でPDCAサイクルに基づいた授業改善を行うことができたか。 ・職員が満足感をもてる研修会を行うことができたか。 ・校内の学習会や校外の研修会等に職員が積極的に参加したか。 ・図書室が児童生徒にとって利用しやすい環境となり、図書を学習や余暇等に活用したか。
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・事例対象児童生徒に対してアセスメントや観察を通して実態把握を行い、それを基に目標設定を行った。また、目標を実現するための実践に取り組み、児童生徒の成長や課題についてまとめた。 ・二学期に2回の研究授業週間を設定し、8つの研究授業を実施した。また、学習指導案の書式の見直しを行った。また、研究授業に伴う事前・事後研究会では、事前に協議内容を提示するとともに、必要に応じて授業参観感想用紙や授業VTRを活用するなどの工夫を行った。 ・夏季休暇中に研修期間を設定し、他分掌と連携して職員の専門性を向上するための研修会を実施した。 ・校外で実施される研修会の情報を、校内電子掲示板や職員室の掲示板で全職員に周知した。また、特に重要な情報については朝礼で周知し、参加を呼びかけた。 ・学習会を企画、実施した（4月：摂食指導（前田主事）、5月：合理的配慮（学支）、6月：アセスメント（研究チーフ）、1、2月：新学習指導要領（学支）、10月、2月：コア・ティーチャーより）。 ・図書データ管理の電子化に伴い、所蔵するすべての図書をデータ化する作業に取り組んだ。 ・図書利用のために、台本板シートを整備し、貸し借りのルールを設定し、全校に周知した。 ・10進分類法に基づいて本を配置し、それに応じて掲示も新たに作成した。
評価の視点	評価
①実践研究の中でPDCAサイクルに基づいた授業改善を行うことができたか。	A (B) C D
②職員が満足感をもてる研修会を行うことができたか。	A (B) C D
③校内の学習会や校外の研修会等に職員が積極的に参加したか。	A (B) C D
④図書室が児童生徒にとって利用しやすい環境となり、図書を学習や余暇等に活用したか。	(A) B C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ○研究チーフを主に学習支援部員から選定したことで、経験の浅い者が担わざるおえなかったグループもあったが、研究チーフ会で取組内容を計画的に実践や研究授業を行うことができた。 ○児童生徒の目標設定や実践内容の構築にアセスメントの結果を反映させることで、実践を通して児童生徒の成長につなげることができた。 ▲実践を通しての授業改善やPDCAサイクルを構築する取組が十分に行えなかった。 ○夏季職員研修後のアンケートでは、児童生徒理解や指導・支援方法への参考になり有意義であったという意見が多くあった。 ▲病弱教育の専門性を高めるために、病気や医療の最新の情報や動向についての研修を継続して計画していく必要がある。 ○自主学習会では職員のニーズや学習指導要領改訂等の新しい動きに対応した内容を取り上げて行い、多くの職員の参加があった。 	A (B) C D

<p>○外部研修会や研究会の情報周知を随時行ったり、職員図書を斡旋したりすることで、職員の研修会や研究会への参加や、図書の購入といった動きにつなげることができた。</p> <p>▲外部研修の情報が多く、現在行っている周知方法では分かりにくいという意見があった。</p> <p>○図書室の木質化に伴う室内の環境整備及び、全図書の電子データ化を終えることができた。</p> <p>○分かりやすい・見やすい図書の配置や掲示、台本板シートの使用を含めた貸し借りのルール設定を行い、利用しやすい環境をつくることができた。</p> <p>▲児童生徒が学習や余暇活動に図書を活用する取組を計画していきたい。</p>	
<p>来年度に向けての改善方策案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主題研究については、今年度の成果と課題を基に来年度の計画を見直し、実践や授業改善の取組を充実させ、PDCAサイクルの構築や研究のまとめにつなげる。 ・ 職員研修について、筋ジス、慢性疾患・難病、重度心身障がいに関わる内容を数年ごとに研修できるよう計画していく。また、コア・ティーチャーと連携し、病弱教育専門分野に関する学習会を計画する。 ・ 外部研修により多くの職員が参加できるよう、研修内容に見合った部や学習グループに直接周知するなどの工夫を行う。 ・ 児童生徒の図書利用促進に向けて、学習場面での図書活用（児童生徒の読書感想文や図書紹介カード、学習での図書利用方法等）を全校に知らせる取組を行う。

<p>評価する領域・分野</p>	<p>保護者・地域との連携</p>
<p>現状及びアンケートの結果分析等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各専門委員会代表の方は自主的・積極的に取り組んでいた方が多かった。それ以外の方でも、地域交流活動委員全員が「ふれあいの日」の前日準備や当日バザー担当として活動してくれた。その他の委員会では、委員代表は、いろいろな場面で活動してくれたが、一般の委員は活動したくてもできない事情があることが、PTA保護者アンケートからわかった。PTA保護者アンケートを受けてPTA行事やPTA組織について見直した。改善案について渉外部職員がPTA理事と一緒に考えてきた。「ふれあいの日」を初めとした「夏祭り」や「クリスマス会」等の行事、会報「すまいるながら」や情報交換紙「しゃべりっちなながら」の発行等について保護者が取り組みやすいよう支援してきた。 ・ 本校児童生徒が積極的に取り組める場としての新しい「ふれあいの日」を目指して、児童生徒や保護者の実態に合わせ、時間短縮、内容の精選を図りながら、大切な地域との交流行事として実施できるよう取り組んだ。 ・ 保護者同士の交流の場である「PTAの日」として、「校長先生と語る会」を1月に行うことができた。「地域交流講座」等のPTA行事への参加者を増やせるように、PTAだよりや「しゃべりっちなながら」に各行事の前に参加の呼びかけをし、行事後には参加者の感想を載せた。 ・ 地域との交流活動として「ふれあいの日」「地域交流講座」等を実施し、長良5校のPTA・個人ボランティアの方たちとの交流を図った。同じ親としての思いを共有することができた。
<p>今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本校保護者の実情を踏まえたうえでPTA組織と活動内容が適切かを見極めて各専門委員会を運営し、保護者同士の交流を深めるとともに自主的・積極的に取り組めるよう支援する。 ・ 「ふれあいの日」が、積極的な交流の場となるよう計画・実施する。

重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・他分掌と連携し、PTA関係行事を実施できるよう協力体制を整える。 ・渉外部とPTA理事会が連携し、学校職員と保護者の協力体制を確立する。 ・地域（長良5校PTAや個人ボランティアの方、大学等）と連携し、協力体制を構築する。
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA組織と活動内容が適切かどうかを見極めながら、各専門委員会が、保護者のニーズに合った活動を自主的・積極的に計画実施できるように支援していく。また、他分掌と連携して「ふれあいの日」や「地域交流講座」等の内容を検討しながら実施することで、保護者のニーズに応えていくようにする。 ・2つの専門委員会の中で、学校に来ることのできない保護者とも交流できる方法を保護者と一緒に考える。 ・「ふれあいの日」が、児童生徒の交流及び共同学習の場として、より積極的に取り組める内容を検討するとともに、各分掌の役割分担を明確にし、全校体制で臨めるよう、計画・実施していく。 ・PTA会員全員で「ふれあいの日」を運営できるよう、支援していく。 ・「地域とともに歩むPTA活動」の柱である「地域交流活動」は、長良5校PTAや個人ボランティアの方等との交流を通して、本校や児童生徒の理解を深めてもらっている。この目的を保護者・職員ともに理解してもらえるよう、機会あるごとに説明していく。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA組織と活動内容が適切かを見極め、自主的・積極的に取り組めるよう支援できたか。 ・本校保護者の実情を踏まえたうえで、各専門委員会を運営し、保護者同士の交流を深めるとともに、PTA活動への参加を促していくことができたか。 ・「ふれあいの日」が、積極的な交流の場となるよう計画・実施できたか。
取況・組状実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度のPTA保護者アンケートを受けて、今年度から専門委員会を2つにし、それぞれの活動に対し、保護者ができるだけ自主的・積極的に取り組めるように支援した。PTA行事への参加者が増えるように、来年度に向けての改善案について広報・環境委員代表を中心に、理事全員で考えることができるよう支援した。 ・研修委員の方に地域交流講座やPTフォーラム等の受付や司会・ホワイトボード書きの係を今年度から担当していただけるよう支援した。広報・環境委員の方には「すまいるながら」「しゃべりっちなながら」の発行に向けての活動、ベルマークの整理等を家庭でも行えるような支援をした。 ・PTA役員の数（監事を含め）を15人から11人に減らした。少ない人数でも一年間PTA活動をスムーズに行うことができるよう、資料の準備をしたり前もって情報交換をしたりする等の支援を行った。 ・保護者同士の交流の場である「PTAの日」として、本校卒業生保護者を講師に招き「プリザーブドフラワーの小さなコサージュ作り」を1月に行えるよう支援した。 ・本校児童生徒や保護者が、積極的に取り組める場としての「ふれあいの日」を目指して、児童生徒や保護者の実態に合わせ、昨年度に引き続き、時間短縮、内容の精選を図りながら、地域との交流行事として実施した。 ・研修委員会と広報・環境委員会の2つの専門委員会が力を合わせて、「ふれあいの日」の企画・運営に取り組めるように、段取りや担当決め等で支援した。また、学校に来ることができない保護者が家庭で準備できるよう支援した。
評価の視点	評価
① 本校保護者の実情を踏まえたうえでPTA組織と活動内容が適切かを見極めて	A (B) C D

<p>各専門委員会を運営し、保護者同士の交流を深めるとともに自主的・積極的に取り組めるように支援することができたか。</p> <p>②「ふれあいの日」が、積極的な交流の場となるよう計画・実施できたか。</p>	<p>A (B) C D</p>
<p>成果・課題</p>	<p>総合評価</p>
<p>○PTA行事の精選を行ったことにより、PTA行事への参加者が増えた。</p> <p>○研修委員会では年間どの講座に参加するかを4月に予定として組み込んだこともあり、前年より参加者が多くなり、研修委員としての意識も高まった。広報・環境委員会では、「すまいるながら」を年2回、「しゃべりっちなながら」を年3回に発行回数を減らしたことにより、保護者の編集作業も滞りなく行えた。ベルマーク活動は、学校に来なくても行えるので、訪問生の保護者も活動することができた。</p> <p>○今年度から訪問部会を無くしたことで、訪問生の保護者もどちらかの専門委員会に所属したことにより、訪問生の保護者でPTA活動に参加する方が増えた。</p> <p>▲「地域交流講座」「ふれあいの日」「日常の授業支援」等、地域交流活動に対する地域の方々の意識は高い。「地域交流講座」に関しては本校保護者の参加が増えたとは言え、まだ地域の方々の参加の方がとても多い。本校保護者の参加を増やすために内容を工夫したり、回数を検討したりすることが課題である。</p> <p>▲「PTAの日」として、「プリザーブドフラワーの小さなコサージュ作り」を1月に行ったが、参加人数がとても少なかった。来年度に向けて、「PTAの日」の内容や設定回数を検討する必要がある。</p> <p>○「ふれあいの日」については、本校保護者と地域の方と一緒に活動する場を設定することにより、地域の方との交流をさらに深めることができた。</p> <p>○PTAバザーの内容が大きく変わり、事前業務が大きく減ったので、一部のPTA会員に負担がかかるという不公平感が薄らぎ、保護者同士の関係が良好な状態で活動を行うことができた。また、学校に来ることができない保護者が家庭で準備できるよう支援したことにより、活動に参加できる保護者が増えた。</p>	<p>A (B) C D</p>
<p>来年度に向けての改善方策案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での活動や研修会に参加できない保護者には、家庭でできることに取り組んでいただき、PTA会員全員が繋がることのできるPTA活動ができるように、さらに支援していく。 ・「ふれあいの日」について、各分掌・各部の役割分担をさらに明確にし、全校体制で取り組む。また、PTA役員が「PTAふれあいの日実行委員会」を開き中心となってふれあいの日企画・運営を行うにあたっての支援やPTA会員が活動しやすいような支援をしていく。 ・「地域交流講座」や「PTAの日」の内容と回数についてPTA会員が参加しやすいように検討していく。

<p>評価する領域・分野</p>	<p>病弱教育支援</p>
<p>現状及びアンケートの結果分析等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜圏域の小・中学校へ訪問支援を実施した結果、支援を求めてきた児童生徒以外にも病弱で困り感をもっている児童生徒がいることを把握することができた。また、そうした者を担当する教員が本校の支援センターの機能について知らないということも把握することができた。 ・岐阜圏域の小・中学校に、市町教育委員会と連携し、本校の訪問支援のパンフレットを配布した。 ・夏期研修を外部に公開し、地域の教員に対して、病弱教育についての専門性向上の機会を設定することができた。 ・岐阜西濃中濃圏域の総合化した特別支援学校の病弱学級担当者の連携会議を実施し、担当者が抱えている悩みに答えていくことができた。しかし、専門性向上のために、継続した支援を求められていることも分かった。 ・岐阜圏域外からの相談にも地域の特別支援学校の支援センターと連携し対応してきた。継続支援等のことを考えると、今後も地域の相談には地域の支援センターと協力して支援していく必要性を感じた。 ・医療機関や相談支援事業所等と連携し、「幼児相談室」を実施した。しかし、連携していない機関から新たな未就学児の紹介があった。このことか

	ら、対象となる幼児の早期支援のためには、今後もより多くの関係機関との連携が課題であると考えられる。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校等の教員が抱える病弱教育の課題解決への支援を実施する。 ・特別支援学校病弱児童生徒担当者の専門性向上への支援を実施する。 ・「幼児相談室」を関係機関と連携し、積極的に実施する。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・各部や各分掌等と協力して計画的に関係機関を訪問し連携を進め外部支援を迅速に行っていく。 ・外部支援の状況を管理職、病弱教育支援センター職員、コア・ティーチャー等で共有し迅速に支援に当たれるようにする。 ・外部支援の広報活動を全職員の協力を得て実施する。
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・本校外部支援活動についての具体的な支援内容の広報活動をホームページ等を活用したり、全校職員や市町の教育委員会の協力を得たりして積極的に行う。 ・病弱教育の相談依頼に対して、依頼者や関係者との懇談から本校ができる支援を明確にして全校体制で支援を実施する。 ・外部支援の進捗状況や結果を担当者間で随時共有し、外部からの問い合わせに迅速に対応する。 ・特別支援学校の各支援センターと協力し各地域の病弱教育の相談に対応する。 ・連携会議や訪問支援等を通して特別支援学校の病弱学級担当者の困り感への支援を実施する。 ・遠隔授業の実践例提案等を特別支援学校の病弱学級担当者へ行う。 ・計画的に医療機関や各相談支援事業所等を訪問し、「幼児相談室」の趣旨・活動内容等を説明して協力体制を強化しながら積極的に対象幼児や保護者の支援をする。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校等の教員への広報活動や支援が積極的にできたか。 ・特別支援学校の病弱学級担当者への支援ができたか。 ・「幼児相談室」の広報活動を関係機関と連携して実施し、未就学の対象幼児及び保護者に対して積極的な支援ができたか。
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・小中高等学校及び岐阜圏域の院内学級へ訪問支援を実施した。 ・外部の保護者・各市町の教育委員会職員・医療機関職員等からの相談に対し、電話や訪問支援にて対応した。 ・本校の外部支援を広く広報するため、全校職員の協力を得て小中高等学校の教員等が参加する会議にてパンフレットの配付・説明を実施したり、ホームページに情報を公開したりした。 ・外部支援の状況をセンター会及び報告書により随時担当者間で共有し、組織として対応した。 ・特別支援教育コーディネーターの研修会や本校の公開職員研修会にて専門性向上の支援をした。 ・特別支援学校病弱教育担当者の困り感に答えるため担当者会を実施し、担当者間の意見交換や情報共有の場を設けた。 ・遠隔授業を始めとしたICT機器利用の提案を積極的に行った。 ・関係機関から対象児の紹介を受け、「幼児相談室」を実施した。 ・新たに保健師や看護師及び重症心身障がい児の家族会や医療関係者の研修会において広報活動を行った。
評価の視点	評価
①小・中学校等の教員が抱える病弱教育の課題解決への支援を実施できたか。	A (B) C D
②特別支援学校病弱児童生徒担当者の専門性向上への支援を実施できたか。	(A) B C D
③「幼児相談室」を関係機関と連携し、積極的に実施できたか。	A (B) C D

		A (B) C D
成果・課題		総合評価
<p>○訪問支援用パンフレットの配布・説明や公開職員研修会の実施により、広く本校の訪問支援を周知することができ、新たな訪問支援の依頼に繋がった。</p> <p>○岐阜圏域の院内学級担当者への訪問支援を通して、担当者の定例会議を本校で開催することになるなど、院内学級担当者と連携体制を構築することができた。</p> <p>○他の特別支援学校の支援センターと連携し、岐阜圏域以外の相談へも迅速に対応することができた。</p> <p>▲継続的な訪問支援及び積極的な広報活動を実施する。中でも広報活動においては、パンフレットの配布だけではなく、直接説明して広報活動を行う。</p> <p>○特別支援学校病弱教育担当者会を開催し、担当者の課題解決への支援ができた。</p> <p>○ICT機器を利用した遠隔授業等の提案をしたことにより、特別支援学校間での遠隔授業の実践につなげることができた。</p> <p>▲特別支援学校病弱教育担当者への専門性向上のための支援を継続する。</p> <p>○関係機関から情報提供を受け、実際に保護者の相談支援が実施できた。</p> <p>▲「幼児相談室」を実施するため、対象となる幼児の保護者に繋がる広報活動の充実を図る。</p>		A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校等への積極的な広報活動及び訪問支援を実施していく。 ・特別支援学校の病弱児童生徒担当者への支援を会議や訪問支援等を通して継続実施する。 ・「幼児相談室」の広報活動の充実を図るため、広報先の開拓や内容の工夫をする。 	

学校関係者評価 (第1回平成29年6月19日、第2回平成30年2月9日 実施)

<p>意見・要望・評価等</p> <p>第1回学校評議員会</p> <p>①学校運営に関すること</p> <p>意見1：長良東校区でアピール（配付等）したいことがあれば、公民館にいただき、地域で力となりたい。職員の方の苦労等も十分に把握している。</p> <p>②教育活動に関すること</p> <p>意見1：初めて校内の授業を参観させていただいた。医療的ケアを必要とする児童生徒にも、外から分からないいろいろな工夫がされ、医療面が落ち着いたら日常生活を安心して送ることができ、その子なりに自分の力で生きていけるように支援されていた。</p> <p>意見2：授業の教材では、音や触れた感じ、匂い等の感覚を大切にされ、工夫をされていることがよい。</p> <p>意見3：音を含む、感覚統合の考え、五感に働きかけるもの（スヌーズレン）もよい。</p> <p>③その他</p> <p>意見1：防犯上、安全に避難する部屋や、さすまたの位置を指す表示等、分かりやすくされていた。施設内、施設外講師による研修も厳しくなっているが、先生方は、非常時の対応はできているのか。</p> <p>回答：マニュアルがあり、対応訓練を実施している。</p> <p>意見2：昨年、避難時スロープについて話させていただいたが、すぐに改善されていた。どうしたら児童生徒の安全を守れるかを考えて校内で対応されている。</p> <p>意見2：重心の方への職員の受け応えが、相手を傷つけないように対応されていることがよい。</p> <p>○学校周辺のハザードマップから、土砂災害に関する訓練が今まで不足していた。その点について意見をいただきたい。</p>

意見1：勤務先事業所がある地域では、水害や土砂災害への避難場所の検討はされておらず、情報が周知されていない状況である。

意見2：地域での防災対策は、連合会が中心となり行い防災対策室がある。タイムラインがはっきりしていることが必要である。シミュレーションをされていることはすばらしい。公民館のちらしを十分に読めていないので、読んでもらえるように言葉をかけることが第一である。そして、読んでくれた人をいかに集めるかが、大きな課題である。

回答：地域の方々との訓練が実施できていないので、今後取り組んでいきたい。

第2回学校評議員会

①学校運営に関すること

意見1：先生が好き、学校が好きというわが子が学校に通っているが、今日の取組を聞いて、一人一人のその子の力を最大限に引き出してもらい、「改めて安心して子供を送り出せる学校である。」と感じた。

意見2：教員自身が元気であってほしい。子どもはそうした教員の姿を見て育つと思う。普段は患者、その親というかわり方をしていてるが、今日教員としてのかかわりを聞いて、勉強になった。自分の立場、学校の立場と立場は違っても、成長させて社会に出していく子供を育てるという点では同じである。病棟と学校が一層協力してサポートしていきたいと思っている。

質問：夜間、校舎の一部屋に蛍光灯が点いているがどうか。

回答：毎年いくつかの学校で盗難事件が発生している。少しでも盗難防止に意味があるだろうと考え点けている。

②教育活動に関すること

意見1：本日の各部の取組で、児童生徒を積極的に外に出していることが紹介されていたが、将来につながる良い取り組みである。自分たちも「ちょっと外出」を年間20回近くやっているが、こういった取組は社会性を身に付けることにつながる。

意見2：本校と普段のかかわりは少ないが、今日の紹介を見てこれだけいろいろな取組をやっていることが分かり、驚き、感心している。今後も地域社会とかかわって独り立ちできるようにして頑張ってもらいたい。

③その他

意見1：私の校区の小学校・中学校も遅くまで仕事をされていて、ある意味でブラック企業と言えるかもしれない。本日、働き方改革として岐阜県の教員の労働時間に関する資料が出されたが、教員が充実した生活を送り、魅力的であることが、児童生徒にとって大切な事である。

意見2：働き方改革は、自分たちも取り組んでいる。現在は社会労務士と協力しながら服務規程を変えようとしている。（例えば、リフレッシュ休暇、誕生日休暇、年休の消化、パートの年休取得促進、ドライバーの年休、休憩時間など。）今の世の中の情勢から、リフレッシュして、その分子供に目を向けていくようにしている。

意見3：民間企業でも現在、働き方改革に取り組んでいる最中である。